



December- Christmas in Australia Natalie Edmondson

Everyone knows Christmas. Santa with his reindeer, green fir trees with their decorations, a hot roast dinner with the family, and a 'White Christmas' (with snow on the ground) is seen as the ideal.

But in Australia, December is in summer. Australian summers are very hot and never white. So, in a climate where roads melt and people bake muffins in their cars, some ideas about Christmas are slightly different.

We all know Rudolph and can talk about Santa's reindeer. But Australians also have songs about Santa's sleigh being pulled by kangaroos, since they are more suited to our climate.

Though you can buy small ones, fir trees do not like the Australian climate. In 1999, Australia tried to enter the Guinness Book of Records for largest Christmas tree by decorating an 80-metre-tall Eucalyptus tree with more than 3000 lights. It was rejected for not being a 'real' Christmas tree, but what does 'real'

mean?

Eating with family is important, but that does not always mean a big roast dinner indoors, like in Europe. Picnics and barbecues on the beach are popular, as is sea food instead of roast meats.

Australia also has new traditions thanks to our climate. 'Carols by Candlelight' is where people gather together in the cool evening to sing Christmas carols while holding candles. It's very popular, especially in big cities like Melbourne.

For many years, the cinema was one of the few places with air conditioning. So after spending Christmas Day eating and feeling very hot, the family would see a movie. Something we still do now, which is why one of the biggest cinema release days for movies in Australia is Boxing Day (December 26th).

How about you? What traditions can you think of which are affected by the climate?

(訳:宮地晶子)

12月ークリスマス ナタリー・エドモンソン

クリスマスを知らない人はいません。サンタとトナカイ、飾りつけた緑のもみの木、家族と楽しむロースターキーの温かい食事、地面を雪で覆われた「ホワイト・クリスマス」が理想的とされています。

でも、オーストラリアでは12月は夏。とても暑くて、雪で白くなることはありません。道路が溶け出して車でマフィンを焼くような気候では、クリスマス概念もちょっと異なります。

ルドルフやサンタのトナカイと言えば、みんな分かりますね。でもオーストラリアではカンガルーがそりをひく歌もあります。そちらの方が気候に合っていますからね。

もみの木は小さいものなら手に入りますが、気候には合いません。1999年に、オーストラリアでは、80メートルの高さのユーカリの木に3000個以上の電飾をつけて、最大のクリスマスツリーということでギネスブックに挑戦しました。でも「本物の」ツリーではないと却下されました。でも「本物」つ

てどういうこと?

家族との食事は大切。でもヨーロッパのように屋内の盛大なロースターキーだけがディナーではありません。こちらではビーチでのピクニックやバーベキューが、そしてターキーではなくシーフードが人気です。

気候のおかげでできた新しい伝統もあります。「キャロルズ バイ キャンドルライト」は、夜涼しくなってからキャンドルを手に集い、クリスマスキャロルを歌うイベントです。特にメルボルンのような大都市で人気です。

数少ないエアコンのある施設として、長年映画館が人気でした。だからクリスマスに食事をしてとても暑くなったら、家族で映画を見たものです。いまだにそうなので、オーストラリアではボクシング・デー(12月26日)が映画公開初日ということが多いです。

皆さんは気候の影響を受けている伝統行事として何を思い浮かべますか?

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第145回

AIよりやっぱ人間

最近、AI(人工知能)という言葉を聞かない日はないですね。囲碁も将棋も人間顔負け。今ある仕事の7割は、将来AIに取って代わられるとか。確かにコンピューターのマニュアル的なものなら、もう翻訳もできるでしょう。でも上のコラムの訳は、とてもAIのようにはいきませんでした。

例えば、「roast dinnerって、具体的にどんな?」「『people bake muffins in their cars』って書いてあるけれど、『人々は車の中でマフィンを焼きます』じゃなくて、『車の中でマフィンが焼けるくら

い暑い』っていう意味だよね」。

幸運なことに、ナタリーさんは東川中学校の職場の同僚。すぐ質問出来ます。「いえっ、本当に車で焼くの。友だちが焼いたものを何回も食べたことあるわ」。「エーッ!」と驚く私に、「How to bake cookies on your car's dashboard」というレシピの動画サイトを教えてくださいました。

翻訳の文にはっきりとその違いが表れているか微妙ですが、やはり「確認してよかった」と思います。

日本語への翻訳のし易さは人によって千差万別です。ナタリーさんの英文は非常に読みやすく訳しやすい。ちなみにノーベル賞のカズオイシグロ氏は多言語に翻訳しやすい文体を意識しているとか。

文章の中に隠れているニュアンスまで正確に汲み取るには、やはりコミュニケーションが必須ですね(例えばヨーロッパに対するオーストラリア人の感情など)。コンピューターにはできない部分です。通訳機(?)、あるいは翻訳機(?)などがあっても、一人ひとりの持つ文化的な背景や隠れた意図まで読み取るのは人間にしかできないことでしょう。それはコミュニケーション力に尽きる、と思う今日このごろです。